様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００００７４

研究課題名（和文）古代伊勢神宮に関する未公刊史料を活用した基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research using unpublished historical materials regarding ancient Ise Jingu

研究代表者
佐野　真人（Sano, Masato）

皇學館大学・研究開発推進センター・准教授

研究者番号：６０５８６０９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：『延暦儀式帳』の研究史を整理したことによって、古くは成立論やその伝来について研究の中心であったが、その議論が落ち着くと、各研究者の様々な視点からの研究が進み、『儀式帳』研究は細分化していったことが確認できたが、その内容は、『儀式帳』の内容を延暦における故事として引用するにとどまるものが多く、その内容を詳細に分析して延暦の頃の実態を明らかする研究は、未だ少ない状況にあることが確認できた。
『延暦儀式帳』の注釈書編纂のための基礎研究として、『伊勢神宮未公刊資料集（文献篇）』『伊勢神宮未公刊資料集（絵図篇）』を発行することができ、近世期の儀式帳研究の様相の一部を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
伊勢神宮についての最重要の古典は『延暦儀式帳』であるが、その注釈書としては、近世後期に叙述された中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』以降は詳細なものが見られなかった（『外宮儀式解』は全３０巻の内、完成を見たのは４巻のみ）。また、研究としては『延暦儀式帳』の成立や書名を主題・対象とした研究、また研究者の興味による個別の記載項目を中心に考察が進められた研究が行われているが、全体を通した注釈的な研究は今日の学界では見られない状況である。その様な中で、『延暦儀式帳』研究の現状と課題を整理し『伊勢神宮未公刊資料集（文献篇）（絵図篇）』を発行したことは、『延暦儀式帳』研究の進展に寄与した。

研究成果の概要（英文）：By sorting out the research history of the Enryaku-Gishikicho, we were able to confirm the current status and issues of research on the Enryaku-Gishikicho.
As basic research for compiling the annotations for the Enryaku-Gishikicho,we were able to publish ―Collection of Ise Jingu Unpublished Materials (Literature Edition)― and ―Collection of Ise Jingu Unpublished Materials (Illustrated Edition)―. We were able to clarify some aspects of the research on ritual books during the period.

研究分野：神道史、日本古代史

キーワード：伊勢神宮　延暦儀式帳　式年遷宮

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

伊勢神宮についての最重要の古典は、『延暦儀式帳』である。その注釈書としては、近世後期に叙述された中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』以降は詳細なものが見られず（『外宮儀式解』は全３０巻の内、完成を見たのは４巻のみ）、研究としては『延暦儀式帳』の成立や書名を主題・対象とした研究、また研究者の興味による個別の記載項目を中心に考察が進められた研究が行われているが、全体を通した注釈的な研究は今日の学界では見られない状況であった。

その原因は、近世の神宮祠官や国学者が古儀を復興するために研究した、『延暦儀式帳』や伊勢神宮の歴史・殿舎・祭祀の変遷などに関する研究成果が未だ公刊されておらず、一般の研究者が広く利用できる状況にないことが考えられた。

２．研究の目的

伊勢神宮の最重要古典『延暦儀式帳』の研究は、これまで中川経雅の『大神宮儀式解』と橋村正兌の『外宮儀式解』（未完）に依るしかなかった。しかし、本研究によって未公刊であった重要史料を学界に提供することは、宗教学に留まらず学問領域を超えた研究者が議論を深めることができ、伊勢神宮研究の基本史料である『延暦儀式帳』を次なる研究段階へ押し上げること、さらに次期神宮式年遷宮に向けた研究の進展に寄与するのみならず、わが国の古代から近世に至るまでの神祇・法制・文化史等の研究に資するであろう。

そして、当該研究期間に『延暦儀式帳』注釈関連資料（『伊勢両太神宮儀式帳攷註』など）、御装束・御神宝関連の絵図面などの研究を推進し、未公刊史料の刊行を行う。さらに『延暦儀式帳』や『延喜式』を神宮における様々な古典や関連文献と比較することで、神宮祠官や関連の学者がこれらをどのように読み継いだか検討し、神宮における学問の一端を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

当該研究期間に『延暦儀式帳』注釈関連資料（『伊勢両太神宮儀式帳攷註』など）、御装束・御神宝関連の絵図面などの研究を推進し、未公刊史料の刊行を行う。さらに『延暦儀式帳』や『延喜式』を神宮における様々な古典や関連文献と比較することで、神宮祠官や関連の学者がこれらをどのように読み継いだか検討し、神宮における学問の一端を明らかにする。具体的には、以下のことを行う。

①津山郷土資料館蔵『伊勢両太神宮儀式帳攷註』、静嘉堂文庫蔵『新修太神宮図』・『新修豊受太神宮図』の調査及び複製の蒐集。

②神宮文庫・無窮会専門図書館蔵『等由気宮太神宮儀式帳鈔』の調査及び複製の蒐集。

③宮内庁書陵部蔵『伊勢神宮神宝図』（享保１４年）などの神宝図の調査及び複製の蒐集

④蒐集した古典籍と『延暦儀式帳』の本文とを比較検討し、伊勢神宮における古代から近世に至るまでの殿舎・祭祀・御装束・御神宝等の変遷した過程を復元する。

⑤『伊勢神宮未公刊資料（文献篇）』『伊勢神宮未公刊資料（絵図篇）』の発行。

⑥外部の学術雑誌をはじめ、学内誌（『皇學館大学紀要』や『皇學館大学研究開発推進センター紀要』など）を通じて、途中経過や派生した研究成果などを随時発表する。

本研究の申請以前に津山郷土資料館に藤原貞幹の『伊勢両太神宮儀式帳攷註』の原本（自筆本）を、静嘉堂文庫に同書の附録と考えられる藤原貞幹自筆の両宮の殿舎配置図を発見した。藤原貞幹は江戸時代中期の有職故実研究家で、日本の文献学・目録学の祖とも言われている人物である。この藤原貞幹が『延暦儀式帳』を研究し、自らの学識に基づいて注釈を加えた著作が『伊勢両太神宮儀式帳攷註』であり、これは第１級の資料として江戸時代の有職研究の成果を今日の伊勢神宮研究に利用し、さらに研究水準を押し上げ発展させることができるものである。また、神宮文庫には北川政方の『等由気宮太神宮儀式帳鈔』の自筆稿本が、無窮会専門図書館には曾孫の北川政武書写本が所蔵されていることを確認した。同書は『止由気宮儀式帳』（『延暦儀式帳』の外宮に関する部分）の注釈書であり、未完に終わった『外宮儀式解』（橋村正兌の著作）を補うことのできる重要な資料である。

これら未活用の『伊勢両太神宮儀式帳攷註』『等由気宮太神宮儀式帳鈔』の翻刻、御装束・神宝絵図を刊行するための調査・関連資料の蒐集を実施する。

４．研究成果

『延暦儀式帳』の研究史を整理したことによって、古くは成立論やその伝来について研究の中心であったが、その議論が落ち着くと、各研究者の様々な視点からの研究が進み、『儀式帳』研究は細分化していったことが確認できたが、その内容は、『儀式帳』の内容を延暦における故事として引用するにとどまるものが多く、その内容を詳細に分析して延暦の頃の実態を明らかする研究は、未だ少ない状況にある。これは偏に『儀式帳』の本文研究が近世期の段階から進展することなく、近代以降、今日に至ってもなお、『延喜伊勢大神宮式』のような本文研

究に基づいた注釈書が存在しないという大きな問題があることの実態を窺い知れた。

『延暦儀式帳』の校訂本は『神道大系』が最も新しいものではあるが、これ 1978 年の刊行であり、今日から見れば 40 年以上も前の研究成果となり今後は、これまでの校訂の成果に基づいた本文研究を加速させ、今日の学問水準に合わせた『延暦儀式帳』の注釈を斯界に提供する必要があるといえる。『延暦儀式帳』の注釈書編纂のための基礎研究として、『伊勢神宮未公刊資料集（文献篇）』『同（絵図篇）』を発行することができ、近世期の儀式帳研究の様相の一部を明らかにすることができた。

研究期間中に、研究代表者と研究分担者が発表した関係の書籍および論文は以下の通りである。

①佐野真人・塩川哲朗編『伊勢神宮未公刊資料（文献篇）』
（皇學館大学佐野真人研究室、2023 年、全 270 ページ）

②佐野真人・塩川哲朗編『伊勢神宮未公刊資料（絵図篇）』
（皇學館大学佐野真人研究室、2024 年、全 125 ページ）

③佐野真人「『皇太神宮儀式帳』に見る遷御の御儀」（『藝林』70－2、pp2－29、2021 年）

④佐野真人「式年遷宮と斎内親王」（『神道史研究』70－1、pp36－62、2022 年）

⑤佐野真人「「延暦儀式帳講案」覚書―戦前期の儀式帳研究の一断片―」
（『皇學館大学研究開発推進センター紀要』9、pp259－286、2023 年）

⑥佐野真人「『延暦儀式帳研究』の現状と課題」（『神道史研究』71－1、pp2－67、2023 年）

⑦塩川哲朗「別宮への幣帛奉献について」
（『皇學館大学研究開発推進センター紀要』8、pp19－33、 2022 年）

⑧塩川哲朗「古代の神宮祭祀と災害」（『皇學論纂』、皇學館大学、pp253－283、2022 年）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 佐野真人	４．巻 9
２．論文標題 「延暦儀式帳講案」覚書―戦前期の儀式帳研究の一断片―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 皇學館大学研究開発推進センター紀要	６．最初と最後の頁 259－286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐野真人	４．巻 70－1
２．論文標題 式年遷宮と斎内親王	５．発行年 2022年
３．雑誌名 神道史研究	６．最初と最後の頁 36－62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐野真人	４．巻 70－2
２．論文標題 『皇太神宮儀式帳』に見る遷御の御儀	５．発行年 2021年
３．雑誌名 藝林	６．最初と最後の頁 2－29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐野真人	４．巻 71－1
２．論文標題 『延暦儀式帳研究』の現状と課題	５．発行年 2023年
３．雑誌名 神道史研究	６．最初と最後の頁 2－67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩川哲朗	4．巻 8
2．論文標題 別宮への幣帛奉献について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 皇學館大学研究開発推進センター紀要	6．最初と最後の頁 19－13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩川哲朗	4．巻 なし
2．論文標題 古代の神宮祭祀と災害	5．発行年 2022年
3．雑誌名 皇學論纂	6．最初と最後の頁 253－283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 佐野真人
2．発表標題 『延暦儀式帳』研究の現状と課題
3．学会等名 神道史学会
4．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

1．著者名 佐野真人、塩川哲朗	4．発行年 2023年
2．出版社 皇學館大学佐野真人研究室	5．総ページ数 270
3．書名 伊勢神宮未公刊資料集（文献篇）	

１．著者名 佐野真人、塩川哲朗	４．発行年 2024年
２．出版社 皇學館大学佐野真人研究室	５．総ページ数 125
３．書名 伊勢神宮未公刊資料集（文献篇）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	塩川　哲朗 (Shiokawa Tetsuro) (70824530)	皇學館大学・研究開発推進センター・准教授 (34101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関